

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> 2学期制により授業時数にゆとりをもたせ、きめ細やかな授業と個別指導を実践し学力向上を図る。 様々な運動に対する興味関心をもたせ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学習を取り入れ、体力向上につなげる。 算数による習熟度別少人数授業を全学年で展開し、基礎学力の定着を図るとともに、「わかる学力」(思考力・判断力・表現力等)もバランスよく育成する。 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 全学年、英語の時間を充実させ、外国の人々と文化交流できる児童を育て、国際社会を積極的に生きていく力を伸ばす。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を確立し、長期休業日前まで充実した授業を行い、自ら考え、解決につなげる時間を確保する。主体的・対話的で深い学びの授業を展開し、課題の解決に向けて、「わかる学力」を育成する。 学力調査、東京ベシックドリル診断シート、漢字と計算の効果測定を行う。その結果を検証し指導の徹底を図る。 算数による習熟度別少人数授業を全学年で展開し、習熟度に応じた授業を行う。特に下位層の児童には、東京ベシックを活用して学力の底上げを図っていく。 特別の教科道徳では、「考える道徳・議論する道徳」の実践内容の振り返りや教材作成を行い、全校教員で共有化を図り、授業改善を行う。 外国語教育では、町田市英語教育カリキュラムを中心にHRTとALTの連携指導を通して、英語によるコミュニケーション能力を育成する。HRT単独型授業の充実のため、外部講師を招聘し、年2回の校内研修を行う。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> 作文や日記、スピーチや話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを深めたり他者との意見の違いを比べたりできる力を育てる。 読解力を高めるために、段落相互の関係や登場人物の心情を的確に把握できるよう、音読劇やワークシートの活用を効果的に行う。 主体的に考えを広げたり深めたりするために、ICTを活用し意見交流の機会を多くもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な見方・考え方を働かせて、学習を進められるようにする。 1時間の流れを掲示し見通しをもたせ、基礎基本の定着を図る。 表現を助ける言葉を増やすために、鑑賞カードや共通事項のカードを掲示し活用させる。 		
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> 体験や見学の機会を増やしたり、ICTを使った授業を充実させたりすることで、関心意欲を引き出す。 板書を課題解決の流れに即した形に工夫することで、自らの学習課題をもち、問題解決的な学習を通して、自分の考えをノートにまとめる力を育てる。 必要とする資料の収集方法、選択、活用の仕方を指導し、効果的な調べ学習ができる力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる技能が身に付く題材の精選と開発を行う。 好奇心を持ち、予想を立てることでねらいや主体性をもたせ、学びに向かう力を育てる。 能力差に応じた個別指導を心掛け、能力差に対応できるスモールステップを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や縦割り班活動だけではなく、集会などでも異学年の交流を進める。 学級活動マニュアルを活用し、活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機などで教材を視覚的に捉える機会を多くし興味関心を高める。 フラッシュカード、簡単なゲームを通して、英語独特のリズムや英単語などに慣れさせ、知識や書く活動の定着を図る。
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間または単元の終末で、確かめプリントに取り組む時間を設定する。知識理解と計算力の定着を図り、学力の基盤としたい。 下位グループでは、前学年、前単元までの学習内容をNavimaの基礎問題を活用し、丁寧に振り返り、基礎基本の定着を図る。上位グループでは、Navimaの発展問題に取り組ませ、さらに理解を深めさせる。 ベシック診断テスト、本校独自の効果測定を長期休業前に実施し、結果の分析をして指導に活かしていく。 デジタル教科書を導入し、問題を視覚的に捉え、児童のより深い理解に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲や関心を図るために、学習カードでの振り返りを充実させる。 授業では問題解決的な学習を用いることで、児童同士で話し合い課題を解決しようとする姿勢を育てる。 		
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> 問題→予想→実験→結果の考察→まとめの流れで進め、学習の見通しをもって取り組むことで、事象の理解や実験観察の力を養う。 科学的な思考力を高めるため、3年では結果を比較すること、4年では関係付け、5年では、実験における条件制御、6年では結果について多面的に考えるなど各学年において重点項目を意識して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能ポイントやシェアリングの意図を明確にすることで児童同士の伝え合いを増やす。 学習カードを集約して、系統性をもたせる。どの学年でも活用し、ねらいに対してしっかりと書けるようにさせる。 体育朝会で行った走超などの動きの意図を伝え、効果のある運動を行うようにする。 		
	生活科	外国語(5・6年生)		
	<ul style="list-style-type: none"> 体全体で自然に触れたり、遊びやおもちゃ作りを通して試行錯誤したりする体験を通して、科学的な見方、考え方の基礎を育てていく。 活動中の気付きを整理、自覚し、伝え交流し、振り返るという流れを行うことで、問題解決をする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTと打ち合わせし、児童が意欲的に英語を話す機会を設ける。歌やチャンツなどを繰り返すことで英語の発音やリズムを体感させる。 実物投影機などで教材を視覚的に捉える機会を多くし興味関心を高める。 フラッシュカード、簡単なゲームを通して、英単語などに慣れさせ、読んだり書いたりする活動の定着を図る。 		

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	発問の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を活用した各種の統計資料や視聴覚教材、実物投影機を用いた手本を通して、児童のより深い理解に繋げる。資料を提示やNHK for schoolで理科の学習内容を確認する。 プログラミング体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせ、児童に論理的思考力を身に付けさせる。 G suite for Educationを活用することで知識や技能の習得にとどまらない資質・能力(思考力・判断力・表現力)、学びに向かう力などを育成する。総合などの調べ学習において、資料をまとめ、プレゼンテーションソフトを活用し発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入時に、学習の流れを提示し児童一人一人が見通しをもって活動できるようにする。 各教科において、本日のめあてを書き、学習内容や本時の展開をつかませる。 ICT機器を活用し、画像を見せたりや動画を見せたりして学習する内容について興味関心を持たせる工夫をする。 体育の授業において、本時の活動に見通しがもてるように、学習の流れを掲示物として用意し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なる答えを出すだけでなく、答えを導くまでの考え方が説明できるような発問を工夫する。 児童が発問に対して、思考しながら答えを出すように働きかける。 発問の後、個人で考える、グループで考えを交流する、全体で発表するという流れで、主体的・対話的で深い学びにつながるようにする。